

若者・子育て世代に選ばれ、高齢者も安心して暮らせるまちの実現に向けて、旧朝陽第二小学校跡地を活用し「こどもから高齢者までが交流できる場」「地域でこどもを育てる子育ての場」が一つになった新しい拠点を整備するため、ワークショップにおいて市民の皆様から頂いたご意見を踏まえ、「コミュニティ・子育て拠点整備基本構想」を策定しました。

1. 目的・背景

- 少子高齢化や人口減少、市民生活を取り巻く課題やニーズの複雑化が進む中、それらへの対応にあたり、助け合い、支え合う関係の構築、分野や世代を超えた交流・連携の重要性が増している。
- 第二学区コミュニティ防災センター（以下、コミセン）や中央児童館が老朽化し、地域住民等からは旧朝陽第二小学校跡地（以下、旧二小跡地）へのコミセンの移転改築、中央児童館の屋外を含めた再整備が求められている。
- 旧二小跡地は、水害対応での課題はあるが、コミセンと中央児童館との交流や連携のしやすさという大きなメリットがある。幅広い世代が同じエリアに集まる環境となることで、地域コミュニティにおいては担い手の確保、子育て環境においては地域全体でこどもの育ちを支える意識の醸成につながる等の相乗効果が期待できる。
- 市総合計画で掲げる目指す都市像の実現のためには、このような「こどもから高齢者までが交流できる場」「地域でこどもを育てる子育ての場」が一つになった新しい拠点づくりを進め、交流と連携を通じて地域コミュニティ強化を図る必要がある。
- こうした背景のもと、旧二小跡地を対象地として整備の基本的な考え方を「基本構想」として整理した。

2. 現状と課題、住民等の意見から整理した大切にすべきこと

- コミュニティセンターは、誰もが入りやすく、気軽に利用でき、柔軟性のある施設とする必要があること
- コミュニティの維持・活性化を図るために、多世代が交流できる屋内・屋外の整備が求められていること
- 生活を取り巻く複雑、複合的な困りごとを相談できる場所を地域の身近なところに整備する必要があること
- 浸水しやすい場所であることを踏まえ、災害に備えたコミュニティセンターとする必要があること
- こどもたちが自発的に遊びたくなる遊び場の整備が必要であること
- コミュニティセンターと児童館の連携や遊び場を通じて、こどもと大人、地域の交流が図られ、地域全体でこどもの遊びや育ちを見守る場所になること
- 自然環境豊かな場所を活かした健康づくりや運動を通じて、交流できる場所の整備が求められていること

3. 基本理念・整備方針

基本理念

『集う 育む 支え合う みんながつながる交流拠点』

整備方針

① 第二学区コミュニティ防災センターの移転改築

誰もが集まりやすい地域コミュニティの拠点。中央児童館との交流・連携を図る。高齢者や子育て等の複雑、複合的な困りごとの支援・相談機能を整備

② 多目的軽スポーツホールの整備

多世代の交流が生まれ、地域コミュニティの活性化に繋がるよう軽スポーツだけでなく、幅広い用途で利用できるホールを整備

③ 中央児童館の屋内屋外が一体となったプレーパーク整備

こどもの自由な発想で遊びができる屋内・屋外の遊び場を整備

④ 交流と連携を生み出す敷地全体の活用

多世代の交流、施設間の連携が生まれる空間整備

4. 施設別整備の考え方

①第二学区コミュニティ防災センター

次の3つの機能を重視した施設整備を図る。

- **地域コミュニティの拠点機能**
生涯学習、防災、福祉などの地域活動が更に活性化される整備
- **交流と連携を生み出す機能**
利用者同士や中央児童館と交流・連携がしやすい整備
- **地域で身近な相談の機能**
身近な場所で、どこに相談したらよいかわからない不安や困りごとを相談でき、支援に早期に繋がることのできる機能整備

■3つの機能を最大限発揮するための整備の視点

- ・入りやすさ、気軽な利用のしやすさ
- ・館内外の動線
- ・将来の利用を想定した可変性のある会議室等の設定

■防災機能の考え方

洪水の時に万が一逃げ遅れた施設利用者がいた場合に備え、施設の高い場所へ上げられるような施設整備を検討

■施設の規模や設備の考え方

- ・建物の規模は、現在の施設と同規模を基本としながら、新たに整備する相談窓口やホールを踏まえ、適正な規模の施設を計画
- ・省エネ再エネ設備の導入による維持管理コスト低減、防災機能強化
- ・訪れやすい場所にするための外構計画
- ・冬期間の利用や除雪を考慮した配置計画

②多目的軽スポーツホール

- 第二学区で盛んに行われている卓球や吹き矢をはじめ、ポッチャやモルックなどのユニバーサルスポーツを楽しめるホールを計画
- 中央児童館のこどもたちの利用や交流が促進されるような場としての整備、管理運営を検討
- コミセン大ホールを兼ねたホールとする
- ホールの想定規模は、面積：300㎡程度、天井の高さ：6m程度

③中央児童館の屋内屋外が一体となったプレーパーク整備

- 整備にあたっては、「こどもの創造性や主体性を向上させる遊び場」「こどもにとっても大人にとっても魅力的で多様な遊び場」「本市の地域資源を活かした遊び場」の3点に留意して整備
- 屋内については、天候に左右されず、年齢、性別、障害の有無に関わらず、気軽に遊べる場所として、また、遊具の配置だけではなく、四季折々の豊かな自然に触れ、親子が一年を通して自由な発想で自然に親しむことができるよう屋内屋外の施設整備を検討
- プレーリーダーの配置、多世代交流の機会創出、地域との連携を図り、様々な関わりの中で、こどもの遊びを支える仕組みづくりを進める

④交流と連携を生み出す敷地全体の活用

- **コミュニティセンターと中央児童館との間の空間整備**
両施設の交流・連携が図れるように、両施設間の空間をイベントが開催できるような広場として整備
- **広い敷地を活用した多世代が楽しめる仕掛けの整備**
敷地外周を一周できるランニングコース、ウォーキングコースなど、誰でも気軽に利用できるような屋外の整備を検討

5. スケジュール

今後、基本構想をもとに、基本計画や基本設計の各段階でより具体化しながら進めていく。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
第二学区コミセン ※多目的軽スポーツホールを含む	基本計画・基本設計	実施設計	工事	運営開始
中央児童館の プレーパーク化	基本計画	実施設計	屋内：大規模改修 工事 屋外：プレーパーク化	運営開始